

KAARb とは？

人口の高齢化は人類が成し遂げた成果であるとともに、最大の社会的課題の一つでもある。日本においては、後期高齢者の増加に伴う要介護者・要支援者・軽度認知障害を持つ人の増加、都市化・核家族化による高齢単身世帯の増加などに伴い、介護・医療費の高騰が大きな問題となっている。1999年、世界保健機関(WHO)が掲げた「アクティブエイジング(活力ある高齢化)」は、この課題解決に向けた指針として注目される。これは、高齢者を虚弱で非生産的な社会的弱者とみる従来の固定観念を打破し、高齢期をより活動的、積極的、可能性のあるライフステージとして捉えながら、加齢を個人の生涯にわたる発達と成熟の過程と認識する意識変革を目指し、その実現に向けて社会的アクションを活性化していくことを目標とするものである。このWHOの指針は日本での高齢化における諸課題の解決策の決め手になると考えられる。

本研究科には、アクティブエイジングを精神的、身体的、社会的側面から総合的に捉え包括的な活性化を探索する応用的・実践的研究と、そのベースとなる諸科学(健康科学、心理学、行動科学、社会科学、環境科学、教育科学など)からの研究実績が蓄積されてきた。

アクティブエイジング研究センターは、これらの学問的営為を結集し、先駆的な研究プロジェクトを生み出していく創発点として、活力ある高齢化への様々な可能性を究明し、支援策のグローバルな提案を含め積極的な社会実装を図る。

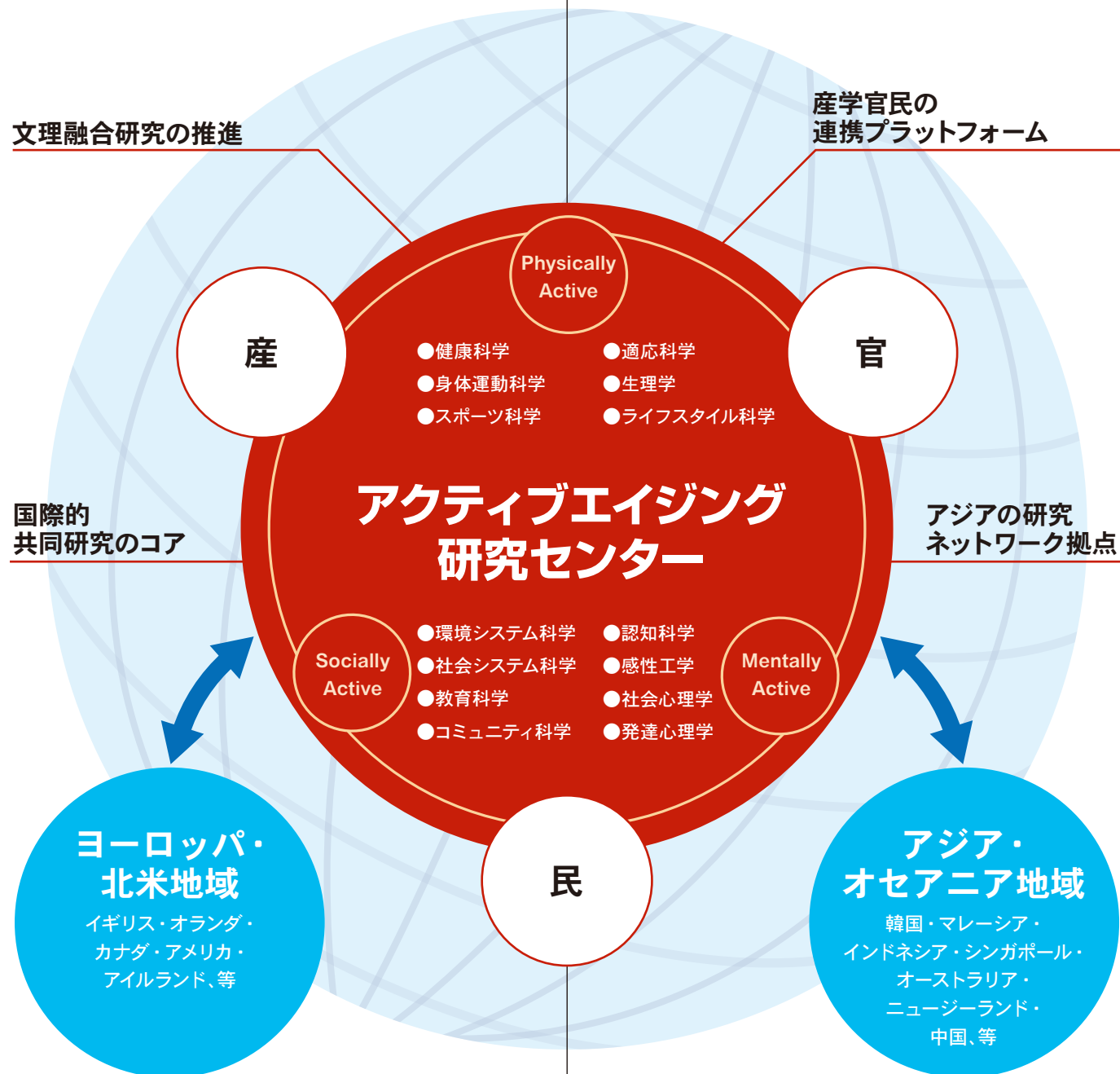
アクティブエイジング研究センター 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
アクティブエイジングプロジェクト室(A棟1階 A118)
Tel & Fax.078-803-7963
Mail: kaarb@h.kobe-u.ac.jp

KAARb
Kobe Active Aging Research Hub
The Graduate School of Human Development and Environment,
Kobe University

アクティブエイジング研究センター
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

加齢に伴う諸課題を産学官民から解決するために。



センターの目標と主要事業

センターは、高齢化の進行に伴う課題の解決に資するためのアクティブエイジングに関わる先端的研究を創発し、本研究分野の活性化と社会的還元を目指していくことを設立時の目標として掲げ、その達成に向けて以下の主要事業を展開します。

1. 研究開発事業

●リーディング研究プロジェクトの実施と拡大 ●新規シーズ研究プロジェクトの始動支援 ●国際共同研究プロジェクトの計画化と始動 ●民間・行政委託研究の受託 ●大型競争研究資金獲得によるプロジェクト研究創出

2. 研究発信事業

●センター主催研究シンポジウムの開催 ●関連学会における研究成果の発表 ●WEB・デジタル・マスメディアを通じた研究成果配信 ●研究論文・書籍出版 ●アクティブエイジング関連政策・施策への提言

3. 研究支援事業

●研究コンサルティングの受託と政策提言 ●アクティブエイジング研究者育成 ●関連国際・アジア学会の招致 ●関連国内学会の共催・後援・協力 ●アジアアクティブエイジング学会(仮称)事務局設立

4. 研究ネットワーク事業

●国内外の大学・研究団体研究者の招聘・連携 ●国内外の関連研究センター・推進機関との連携化 ●民間・行政セクターからのセンター研究員 ●産官民学コンソーシアムによる研究会開催 ●研究情報ネットワークによる研究成果の共有化

研究ハブ(結節)拠点形成に向けて

センターの目標と主要事業を展開するためのプラットフォームとして、以下の学際性、国際性、職際性をテーマとする研究ハブ拠点機能を向上させ、先駆的な研究を創発し発信していくための結節点としてセンターの活性化を図ります。

1. 学際的研究ハブ拠点

●アクティブエイジングを個人から文化レベルまでの多面的・総合的現象の中で捉え、複眼的視座と科学を結節した新たな基礎研究・応用研究を創発する

2. 国際的研究ハブ拠点

●高齢化というグローバルな課題に対する世界的視野からの研究推進と社会還元を目指し、特にアジアの視点から世界に向けてアジア創発研究を発信する

3. 職際的研究ハブ拠点

●産官民学の垣根を越えて共同研究を促進し、研究活動を活性化させる結節点として、課題解決に直結する研究成果の社会的還元を加速化させる